

日本大学の学生が富士駐屯地を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、6月2日（金）、日本大学国際関係学部（三島市）の学生の「陸上自衛隊富士駐屯地（小山町）部隊見学」を支援した。

これは、同大学の校外ゼミの一環で、我が国の防衛への理解を深めることが目的。元自衛官である吉本隆昭教授とゼミ生8人が同駐屯地を訪れ、駐屯地内の施設や部隊を見学した。

資料館とヘリポート場に常設展示してある装備品の見学では、旧軍時代の貴重な資料や陸上自衛隊で過去から現在まで使用している戦車や大砲等を広報担当者の説明のもと見学した。また、同駐屯地内にある車両整備工場では、隊員が戦車を整備する様子等を直接見ることができたほか、若手幹部から自身の自衛隊受験に関する話を聞く等学生達は自衛隊に関して様々な知見を得た。

参加者からは「自衛隊をより深く知ることができ、貴重な体験ができた」「自衛官を目指しているので、今回学んだことを活かしたい」といった将来を見据えた感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような学生が直接部隊を見学出来る機会を活用し、若者の更なる安全保障環境への理解促進と自衛隊への志願者獲得へ邁進していく。



卒業生、母校で自衛隊をアピール

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、6月7日（水）、相川学園静岡高等学校（藤枝市）で行われた「業種別就職ガイダンス」において自衛隊及び自衛官について説明を行った。このガイダンスは、就職を希望する学生を対象に、各業種の担当者から直接仕事内容や必要な資格、求める人材等を聞くことで今後の進路選択の参考にすることが目的。自衛隊を含め10の企業等が参加し、1社約10分の時間を有効に活用し、各企業等がそれぞれのアピールを行った。

自衛隊は、同校出身の静岡募集案内所広報官・大村有希2等空曹が講師を担当し、自衛隊の任務や陸・海・空各自衛隊の魅力をわかりやすく説明した。参加した66人の生徒は真剣に各業種の説明を聞き、今後の進路選択の参考にしていた。

3年生の担当教諭は「参加した生徒の中に今回の説明会で自衛隊をより深く知ることができ、受験を真剣に考えている子もいる」と話し、今後の募集活動への大きな足掛かりを感じさせた。

静岡地本は、今後も各学校との連携を密にし、校内ガイダンス等に積極的に参加して、熱意ある若者の入隊に繋げられるよう募集広報活動に努めていく。

